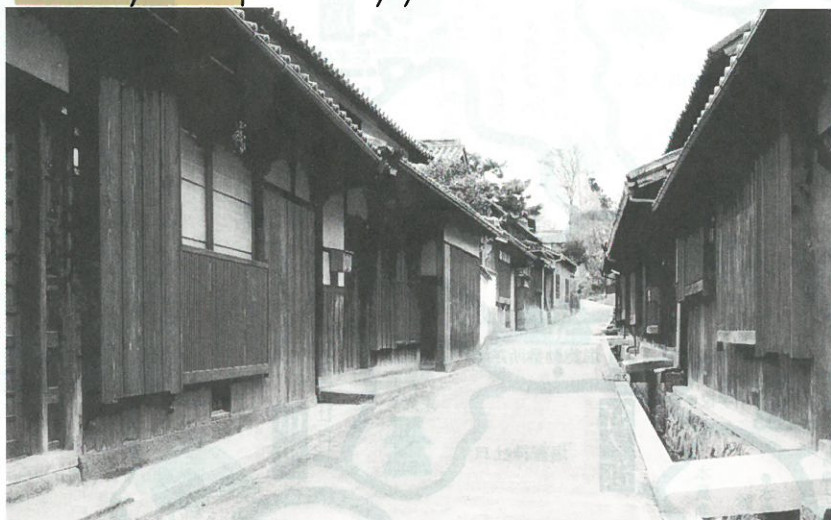
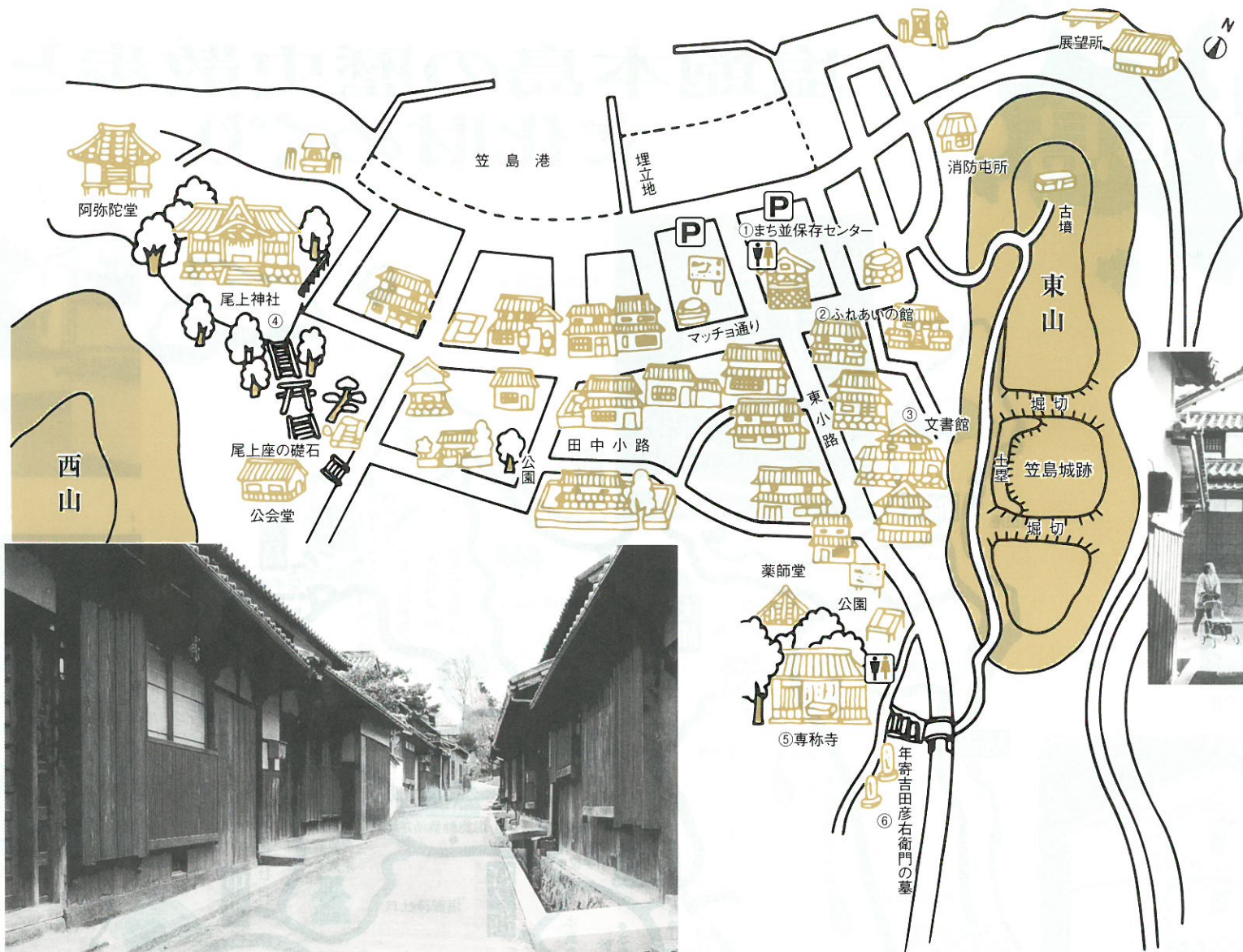


## 江戸から戦前の名残をとどめる笠島の町並み

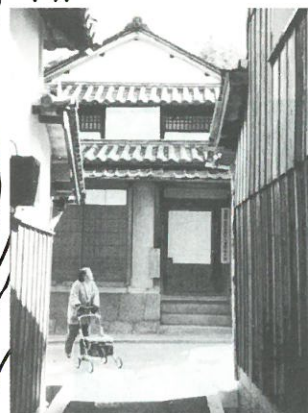
国の「重要伝統的建造物群保存地区」の選定を受けている笠島の集落は、本島の北東端にある小さな港町で、北面に天然の良港が開け、三方は丘陵に囲まれています。笠島は、またの名を城根と呼ばれるとおり、塩飽水軍の根拠地でもあり、集落の東にある東山には土塁、堀切、見張台跡などが残されています。

集落内には、狭い道路が網の目のように通り、このうち集落の東寄りや南北に走る東小路と、これと直交して弓なりに通るマッチョ通りはやや道路幅が広がっています。この通りに面して、正面に千本格子の窓をあしらひ、本瓦葺きで土壁を厚く塗った町屋形式の住宅がひしめき、それらが見事なまでの美しさを演出しています。このほか、狭い通路沿いには農家風の住宅も見られ、また集落周辺の山際にはかつての繁栄をしのぶ多くの寺社が点在していました。

現在、江戸後期から戦前にかけて建てられた建物が100棟あまり残されていますが、どの家も心憎いばかりの工夫の跡を随所に見受けすることができます。



東小路に建ち並ぶ町屋形式の建物流



文書館 (藤井邸)

### ◇伝統的建造物群の特徴◇

建物の多くは、江戸後期から戦前に建てられ、切妻造、片入母屋造、または、入母屋造本瓦葺のツシ2階建構造で、上階を塗屋とし、虫籠窓や格子窓を設け、下階は腰格子付き雨戸構えと出格子・窓格子を組み合わせた表構えを特徴とする「町屋形式」の建物が建ち並び、間に土塀を巡らした家が散在しています。また、壁に瓦を貼ったいわゆる「なまこ壁」の建物もあり、優れた景観美を創り出しています。

このほか、坂道に沿った建物は、切石の基礎を高く積んだ上に建っているのも笠島の特徴の一つです。

### ◇町並み道路の特徴◇

集落の東にある東山に沿って南北に通る「東小路」、海岸線に平行して弓なりに湾曲する「マッチョ通り」を主道路とし、東西道路は両端で楯形となり、櫛状に海岸に向かって各枝道があります。西端には、山に沿って尾上神社前を通る南北道路があり、南の山に沿う東西道路の「田中小路」が東小路と結ばれています。

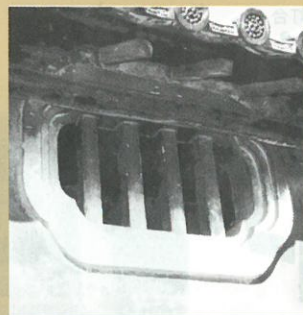
各道路のうちあるものは湾曲し、T字型、食い違いT字型に交わり、一部道幅を変えて見通しがきかないような構成がとられています。なお、海岸線沿いの道路は新設のものです。

### ◇町並みの見どころ◇

- ①真木邸……江戸時代の建築で、祖先には年寄を務めた人もある家柄。なまこ壁をふんだんにあしらった外観もさることながら、カマドを築いた土間や2階造りの土蔵など町屋形式の特色を十分残している建物といえます。
- ②旧真木邸……江戸時代の建築で、典型的な田の字型の四間取りを前後で食い違わせ、前栽を作るという面白い工夫がこらされています。カマバの上には煙ぬきがみられます。
- ③藤井邸……平入りの多い笠島の町並みのうち、数少ない妻入りの建物で、江戸時代の建築です。現在は修復されて、昔の塩飽関係文書や絵図、教科書等を展示する「文書館」として一般公開されています。
- ④尾上神社と尾上座……神社拝殿は大正5年の建築で、明治30年から大正9年まで塩飽大工の養成所であった「組合立塩飽補修工業学校」の生徒たちの手になるものです。また、神社境内には回り舞台を持つ本格的な芝居小屋「尾上座」が昭和45年までありましたが、今は礎石にありし日の賑わいをしのぶのみです。

- ⑤専称寺……笠島の背後にある光厳山中腹には、建永2年(1207)法然上人が土佐国に流される際、笠島に数か月滞在し、その配流地跡に建てられたのが当寺で、上人ゆかりと伝えられる什物が残されています。

- ⑥年寄吉田彦右衛門の墓……国指定史跡に指定されており、寛永4年(1627)の建立で高さ3.3mの位牌形の墓です。吉田家は代々彦右衛門と称し、宮本家と並んで寛政のころまで長く年寄を務めていました。



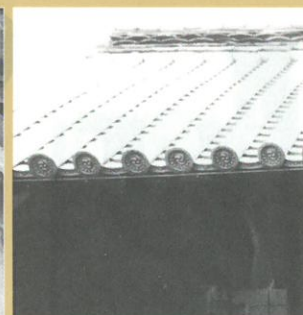
⑤虫籠窓 (むしこまど)  
町屋の中2階に設けられた窓で、形はいろいろあります。



⑥矢来 (やらい)  
石垣の組み方で、最も高度な技術を要するものです。石の表面のノミ跡模様がたいへんきれいです。



⑦持ちおくり  
下屋根を支えるもので、塩飽大工の腕を競うように、凝った彫刻のものがあります。



⑧むくり  
屋根瓦の葺き方の一種で、寺などは反対に内側に湾曲しており、当時の流行でした。